

一山議員 おはようございます。早速ですが、通告してありました3点について、お伺いをいたします。はじめに小中一貫教育について、お伺いいたします。小中一貫教育は、小中の9年間を一体としてとらえ、系統的、継続的な指導方針を立てることにより、子ども達の心身の発達に適合した教育を進めようという取り組みで、いわゆる小中一貫教育を導入するのは、義務教育9年間を見据えた教科学習を通じて、学力を着実に高めることや児童、生徒一人一人に対する連続性のある指導を行うことなどが目的だとしてあります。小学校では一人の担任教師が全教科を教えるのに対し、中学校では教科ごとに別々の担任が教えます。原則、一つの中学校に複数の小学校が進学することもあり、中学生になったとたん勉強についていけなくなったり、いじめや不登校が増える中一ギャップが指摘されています。小中一貫教育は、この中一ギャップの解消にも効果があると言われています。8月に視察に行った兵庫県姫路市は、昨年4月に市立城南と上巽小学校の2校を統合してできた新設校、白鷺小学校と市立白鷺中学校で、小中一貫教育をスタートしております。同市の一貫教育は、小学校6年、中学校3年の6、3制から4、3、2年生に教育課程を移行することが特徴で、義務教育の9年間に連続性とスムーズな接続を持たせることと、いじめや不登校などの問題行動は、小学6年に比べ中学1年では、約2.5倍にも増加しており、小中学校間での人間関係や学習面でのギャップが原因とされており、今回の一貫教育導入で、小中学校の教員間、児童、生徒間ともに連携を強化しギャップの解消が図られていると言われていたことも8月に行った時に説明を聞かれて皆さんもご存知の通りでございます。また、小中一貫教育、全国連絡協議会主催の小中一貫全国サミットがこれまで何回か開催されているようですが、サミットでは、1つ目に連続性のある9年間のカリキュラムを作成し、生きる力を身に付ける市民科の導入や異学年の交流、小学校段階の英語科導入などを実践している学校。2つ目として不登校の激減、小学校高学年の学習意欲向上、小中を通じた学力向上などで成果をあげている学校。3つ目に小学校高学年の国語や算数の授業で教科担任制を一部取り入れている学校、また、11年度から小学校の英語が必修化されることを前に9年度から小学校の英語教育、10年度から算数、数学など、また、12年度からは全ての教科で完全実施するとともに、理科や社会の授業における小中学校教諭の相互乗り入れや習熟度別学習などによる少人数指導、それから、スクールカウンセラーによる一貫した教育相談などを行うなどの成果や課題が報告され、活発なパネルディスカッションなどの後、各地方自治体が地域の実態に応じた特色のある教育活動を効果的に実施できるよう国に対して、1つとして教育における地方分権の拡充、2つとして実効性のある法改正

などを求める共同宣言を行ったようでございます。このような教育問題、教育全国サミットについては、町長、教育長は、よくご存知のことだと思います。そこでお伺いいたします。本町で現在進められている学校建設については、校舎は一貫教育を前提に計画は進められておりますが、教育の方の計画はどのようにになっているのですか、計画は立てておられるのでしょうか。これまで協議、話し合いはされているのですか。されているのであれば、どのようなメンバーでしょうか。また、これからだったらどのようなメンバーでされるのですか。それから、一貫校となればどのようなメリット・デメリットがあるのですか。デメリットがあるならどのようにして行かれるのか、また、計画しておられる一貫教育へのご見解をお伺いいたします。2点目に米粉入りパン導入と給食費補助についてお伺いいたします。米粉の消費拡大で、米の需要低迷に歯止めを掛け、子ども達の食への関心を高めるのが狙いとともに家庭などでより一層米粉の消費拡大などを推進のために徳島県内全域の国公立小中学校と特別支援学校で、来年1月から給食に県産米粉を使ったパンが導入されることとなっており、学校給食に米粉入りパンを全域で導入するのは岡山県に次いで全国2例目で、県内305校のうち米飯給食だけの学校などを除く273校で、週平均1.9回出されるパンを米粉入りパンに変えるそうで、パン納入業者などでつくる県学校給食パン、協力会が試作を重ね食味が良く、既存生産設備で作れる米粉配合割合10%のパンが考案されたそうです。県内農家が作った米粉用米を専用施設で製粉し、徳島製粉が小麦粉と混合して、各納入業者が様々な種類のパンを焼くと言われてますが、米粉入りパンは従来のパンより、やや割高となります。が、関係業者からの協力により差額分を負担してくれるため、各家庭の給食費負担は増えないそうですが、本町においてはどうでしょうか。準備や予算的な問題はないのでしょうか。業者との話し合い等はできているのでしょうか。また、給食センターの職員や先生方にも具体的な説明はされるのか、既にされているのだったら皆さんの反応とか思いはどうなのかお伺いいたします。また、県内でも北島町や板野町が子育て支援の一環として、学校給食費を半額補助を町がするようですが、半額補助に対する考え方とご見解をお伺いいたします。3点目に町長選挙への再出馬についてお伺いいたします。大神町長は、一期4年間、漁港の整備、防災対策、医療問題、子育て支援、産業の問題等々に厳しい財政の中、色々と取り組み実現も見てきたと思いますが、学校統合や建築のこと、温泉の件、更新住宅に係る諸問題やマンゴーの栽培のことなど、やり残した件やこれをやりたい、しなければならないと思っていることなどあろうかと思いますが、町長は、9月議会の質問に対して、再出馬については、そう遠くない次期には意思表示いたしました。

いと思っていますとの答弁でしたが、その後の心境、お気持を再度お伺いいたします。来年4月任期満了を迎える次期町長選挙への出馬の考え、ご意思をお伺いいたします。

議長 町長。

町長 一山議員の質問にお答えしますが、まず1点目の中中一貫教育についてでございます。議員諸侯もご存知のように、最初は牟岐小学校南校舎の耐震化の脆弱性による建て替えというふうなことで検討が進められておりましたし、牟岐小学校と河内小学校の統合という従来の流れの中で色々検討された時期があります。港に近いし、遠くない時期に津波の襲来というふうなことで、子どもの安心、安全というふうな教育機会設備というふうなことから市宇が丘、いわゆる丘陵地帯への移転というふうな検討に入りました。一番困難視されておりました地権者との交渉、グラウンドの買収、用地の取得につきましては、お蔭で14件の所有者からご理解をいただきましてスムースに交渉、勿論、色々その間には紆余曲折がありましたけれども、もう既に埋め立ても進んでおりまして計画どおりグランドの造成が新調しつつあります。さて、その中で先日も議員の皆さんには内容につきまして、いわゆる校舎のありよう、或いは、また、中学校との連携というふうなことで、ご説明、設計業者との説明を聞きました。そもそも一貫教育というのは、6、3、3制の中でのいわゆる義務教育、9年生という考え方の中から色々先刻算面に見学に行ったり、或いは、また、姫路の白鷺小学校の見学の中でも大いに参考になりましたけれども、いわゆる中1ギャップであるとか、或いは、教員の相互乗り入れの家庭科とか音楽とかいうふうな無駄を省くというふうな色々なメリットがあるというふうなことで、大いに参考になった訳ですし、私自身も前職が教育界に身を置いておりますので、常に关心を持っております。この設備につきましては、今、計画中であるべき姿を追及しておりますが、昨日の佐那河内の口の字型校舎、いわゆる一貫教育というふうなことで新聞報道に出ておりましたけれども、何だか先を越されたというふうな気持ちもいたしております。そこで、小学校の位置であるとか、或いは、繋ぎ廊下で教室の空き地利用とか、或いは、教員の相互乗り入れと、そういうふうな色々なメリット、それについては、デメリットも伴うかと思いますけれども教育委員会サイドで現場で色々先生の意見を聞き、或いは、余所の先程ご指摘がありました全国一貫教育研究、文科省のその中で理想的なものができるようにというふうなことで念じております。言う間でもございませんけれども、いわゆる教育権というのは、教育は行政と一線を画する

というのは、これは元々の考え方でありますので、私も見守っているというふうなことで報告は受けておりますけれども、せっかくの機会ですし、或いは、貴重な財政的な負担もかなり膨大になりますので、これはまたとない四国一の施設、いわゆる学園文教地域というふうなことで、意気込んでおりますけれども今後ご指摘のメリット、デメリットをはじめ教育の中身の計画につきましては、ご指摘もありましたように6、3のいわゆる9年の義務教育の中での3、4、2とかいうふうなこの中身につき、或いは、また、人事はともかくですけれどもそういうふうな相互乗り入れの中での牟岐小中学校というふうな考え方の中で教育委員会の方で充分検討していただけすると、或いは、これから問題かと思います。取り合えず、理想的だと言いますか、財政的制約のある中で校舎の建築、併せて先日もご相談申し上げましたけれども保育所の統合、また、それに付隨しまして給食センターというふうな財政的になかなか負担の多い計画もございますので、それについては、また、教育長をはじめ詳しく説明をしてもらいますので、小中一貫教育については、以上でお答えといたします。それから、米粉の導入というふうなことでございますが、これも今流行と言いますと何ですが、色々各地では試みをされています。業者との関係とか、また、色々な関連もございます。具体的には、また、教育長、関係者の方から説明をさせます。さて、3点目の再出馬のご質問でございました。先日の9月議会には、そう遠くない時期にお答え申し上げますというふうな、その後の私の現在の心境と言いますか、申し上げたいと思います。私の好きな言葉の中の一つにロマンという言葉がございます。このロマンというのは、ロマンチストであるとか、或いは、ロマネスク、或いは、ロマンチックというふうな文芸作品とか芸術作品普通使われてあります。このロマンには夢と冒険というのが、その言葉の裏にあるように思います。一般に男のロマンとか大正ロマンとかいうふうな。と言うと、何だか脆弱でいかにも茫洋とした感じがする訳でございますけれども、故里牟岐に捧げる私なりのロマン、いわゆる夢と冒険があると私は言いたい訳です。ご存知のように私も地方行政の何たるかも知らないままに、また、社会科教員としての前職でありながら無我夢中の4年、3年半、一期目でもありました。議会の皆さんのご理解とかご指導、ご協力を賜り、また、町民のご支援をいただいたこの期間でございました。自分ながら言うのも何ですが大過なく勤めさせていただいたという感じを持っております。この点に関しては、改めて厚く感謝しお礼を申し上げたいと思います。ちょっと余談になりますが、先日、インターネットをいじっておりますと、私の名前の後に牟岐町長として政治家と書いてあるのでびっくりしました。実は政治家という言葉の中には、私自身いい感じを持っておりませ

んでした。政治家と言うと国会議員とかそういうふうなレベルと思っております。それだけに驚きもびっくりも余計でしたけれども、私としては、町民への奉仕者、いわゆるマネージャーのつもりと、そういうふうな心持であるだけに余計でした。さて、一期目の任期を終了するに当たりまして、私としては、町民の許しをもしいただくなれば、先程のご質問にありましたように小中統合一貫教育及び保育所、また、給食センター等、文教地域の完成等々をできるだけ早く実現したいというふうな気持ちであります。そして、また、海部病院の今後の有りよう等など挙げれば切がございませんけれども、真の暖かみのある町づくりに更に邁進できればと思っております。夢と冒険と申し上げましたけれども、一人で見る夢はともかくみんなで見るとなると、様々な困難があることは充分承知いたしております。陽も余り高くないということでもありますし、奉仕者としての故里牟岐に全智、全能を不束ながら、微力を捧げたいと思っています。あれこれ申し上げましたけれども、次期町長選に出馬の決意の被暦といたします。以上でございます。

議長 教育長。

丸岡教育長 先程の一山議員さんの一貫教育の計画、並びに協議、話し合い、メンバーについて、教育長、どのように考えているのかというご質問にお答えしたいと思います。この平成22年の今年の4月に牟岐町教育委員会におきましては、教育委員会と町内の校長会を基盤にいたしまして、小中一貫教育を推進していくための委員会を立ち上げたところでございます。小中一貫教育の狙いといたしましては、大きく分けまして2つございます。1つは小中学校の教職員が共同しながら小中学校間の円滑な接続を図ること。これが1つの大きな目標でございます。2つ目は全ての教職員が9力年間の子どもの育ちと学びに責任を持ち夢と志しを持ったたくましい子ども達の育成を目指すということを第2の目標にしています。こうした目標を達成するためには、初年度におきましては、河内小学校には知の研究部会を設けております。牟岐中学校内には徳の研究部会を設け、牟岐小学校には体の研究部会の3つの部会を立ち上げて一貫した教育を推進できるようになるための制度づくりとかシステムづくりを3校で研究しているところでございます。推進委員会のメンバーといたしましては、町内にあります3つの学校の校長、教育長、一貫教育アドバイザーで構成されまして、毎月1回開催されております町内校長会に協議の場と時間を設けまして、各学校や教育委員会から一貫教育についての計画や提言、そして、また、実践等についての報告と進捗状況を出し合いながら話、しっか

り話し合い、練り上げたものについて、校長は各学校にさらに持ち帰りまして、所属職員の共通理解が得られるよう研修をさらに深めているところでございます。次に小中一貫教育のメリットとデメリットについてというご質問でございますけれども、牟岐町の小中一貫教育は、本年度よりその取り組みを始めたところでございます。従いまして、まだメリットやデメリットを挙げるまでに至っておりませんけれども、一貫教育を既に導入している他県の学校や地域からは、先程、一山議員さんの方からも話がありましたけれども、そのメリットについては、小学校と中学校の教職員が互いに同一歩調で取り組むことができるようになり学力の向上とか、或いは、いじめや不登校の減少、学校嫌い等のいわゆる中1ギャップの解消などに効果が見られるという報告がでております。デメリットの1つとしては、9ヵ年間を見通した一貫教育を行うことによりまして、小学校の持つ文化や伝統が薄れていくのではないか、そういうふうな課題が今出てきている訳でございます。本町の一貫教育につきましては、小中学校の特色とか、或いは、独自性を大切にしながら無理なく継続的に取り組めるものとして、本町の特色ある一貫教育を目指していきたいと、そのように考えているところでございます。今、申し上げました事柄については、ただただ大雑把な内容になりましたけれども、本当に具体的な取り組みはこういうようにしておりますということについては、また、別の機会を捉えまして詳しくお伝えさせていただこうと思っております。以上でございます。

議長 教育次長。

高畠教育次長 私の方からは、米粉パン導入と給食費の補助についてということで、答弁をさせていただきたいと思います。はじめに米粉パンと書いておられますが、栄養士さんの方から表示的には米粉入りパンというようにご理解していただきたいというように申し付けられましたので報告をさせていただきます。それと、一山議員の質問の要旨と今から概要、経緯等を説明いたしますが、少し重複するところがあろうかと思いますが、ご了解をいただきたいと思います。この米粉入りパンでございますが、徳島県産の米で作った小麦粉と10%の割合でブレンドした正確には県産米粉入りパン用小麦粉という長たらしい項目ですが、正確にはこういうふうに言うということです。それで、11月8日に飯泉知事が記者発表であります全県的に1月の平成23年1月から実施するということで、今、全県的に準備をしているところと聞いております。先程も言われましたが、全国的に全県的に実施するのは、岡山県に引き続きまし

て2番目というように聞いております。本県は1月というようになっておりますが、今、小麦粉の在庫等で全県的にまちまち2月に実施するところもありますし、1月からも実施するというように聞いております。本町に関しましては、週に2回パンの給食をしております。火曜日と金曜日にパンの給食を実施しております。それで、これから通告書によりまして、説明、答弁をさせていただきたいと思います。1つ目の準備や予算的問題はないのかというのでございますが、本町に関しましては加工委託をしております。パンに限りまして、町内の業者で加工委託をしております。従来の製造方法でございますが、米粉10%のブレンドというようなことで、小麦粉100%のパンと同様、従来の設備と加工方法で製造が可能ということで、何ら設備投資、また、方法に関しましては従来どおりというようなことで準備等には問題ないと聞いております。予算的には米粉入りパン用の小麦粉の値段も皆さんの学校給食会の協力によりまして変動はないということで、予算的にも増額等はございません。従来どおり小麦粉100%の値段と同じと聞いております。2点目の業者との話し合いはできているのかというような質問でございますが、直接私の方から加工業者に行きまして、色々な協議はしておりません。財団法人の徳島県学校給食会の職員が直接業者に行きまして、色々説明をしていただいております。聞くところによると色々周知済みと、感触といったしましては良い感触であったと、職員の方から聞いております。今、米粉入りパンの試作中ということで業者から報告を受けておりますので報告をします。それと、3つ目の給食センターの職員や先生方にも具体的な説明をされているのか、既にしているのか反応はどうなのかという質問でございますが、この件に関しましては、牟岐町学校教育推進委員会及び学校給食センター運営委員会で説明をしております。この教育推進委員会のメンバーは11名で構成されております。各3校の校長、また、先生方から選ばれました、選出されました食育リーダー、それと、各3校のPTAの会長、それと、教育長と私とメンバーで11名で、この中で校長、食育リーダーも入っておられますので、説明をこの中でいたしました。それと、給食センター運営委員会ですが、これは12名で構成されております。各3校の校長、PTAの会長、女性部長、それと、学校栄養士、それと、学識経験者、給食センター所長ということで、12名で構成されております。この中でもこの米粉入りパンの導入説明いたしまして、ご了解を得たものと私はしております。感触的には良いというようなことで来年の1月から実施というようなご了解を得ています。次に給食費の半額補助に対する考え方と見解という質問でございますが、現在、本町の給食は、1食小学校が260円、月額4,400円でございます。中学校が1食290円、月額4,

900円となっております。この差は量の問題かなと思っております。この4,400円と4,900円でございますが、中学校はやはり体力的にも大きいので量の関係から差額が出ていると聞いております。県内の給食費のうちの食材費は保護者が全額負担というのが原則となっておりますので、本町も食材費は保護者から全額いただきまして運営をしているところでございます。県内の動向でございますが、半額補助をしているところでございますが、先程も説明がありましたが、板野町さんが今年の4月から、それと、北島町さんが来年の4月から実施ということと聞いております。本町の直ぐに試算をする訳でございますが、児童、生徒数が22年の7月1日現在で304名ございます。小学校、中学校で河内小学校が28名、牟岐小学校が159名、牟岐中学校が117名、計304名の児童、生徒が通っております。小学校、中学校と分けて試算をいたしますと、給食費が15,357千円、これに関しまして半額をいたしますと、およそ7,700千円の一般財源からの持ち出しというようなことになろうかと思います。7,700千円、単年度であればどないかという話しもありますが、これ10年しますと77,000千円ですか、いうような金額が出てきますので、今のところ一般会計からの持ち出しというのは、現状は困難と判断をしております。また、色々県内の動向を見て、色々協議をしてまいりたいと思いますのでご協力をお願いしたいと思います。私の方からは以上でございます。